

福岡県議会議員 [福岡市博多区選挙区]

堤 かなめ

県議会活動報告 平成24年 秋号

この夏、経験がないような激しい豪雨が九州北部を襲いました。災害で亡くなられた方々にご遺族に対し深く哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

福岡県内の被災地としては、八廿市、柳川市、みやま市、朝倉市と視察に伺いました。9月定例会では、災害復旧対策として220億を計上する補正予算案などが議決されました。なによりも命を大切に政治を目指して、精一杯がんばりたいと思います。

これまでは要旨のみを掲載しておりましたが、本号では、一般質問の全文を掲載させていただきました。今回は、県立図書館を中心に質問いたしました。県内の市町村図書館や学校図書館の振興については、機会を改めて質問したいと考えております。

2012年 秋

福岡県議会議員 堤 かなめ



福岡県南の豪雨被災地域を視察



崖崩れの現場

平成24年度9月定例会における、堤かなめ議員による一般質問

県立図書館を中心に質問、「共通図書カード導入」と「国立国会図書館誘致」の2点を要望！

皆さま、こんにちは。民主党・県政クラブ県議団の堤かなめです。図書館の振興につきまして、質問いたします。

1. 図書館の可能性と役割

はじめに、図書館の可能性と役割についてです¹。

図書館は、単に本を借りるだけの場所ではなく、もっと多様な可能性と役割をもっています。国内外の図書館について調べていくうち、図書館の重要な役割の1つが、過去の人類の偉業を、後世へと、受け継ぐことである、とわかってきました。

産業やビジネス、科学、芸術、文化など様々な分野で、新しい発想やア

イデアを生むには、まず先人に学ぶこと、適切な「過去との対話」が必要です²。そして、図書館は、そのような先人たちの業績をストックし、万民に提供する役割を世界中で果たしてきたのです。

「巨人の肩の上に立つ (Standing on the shoulders of the giants)」という格言があります。これは、万有引力を発見したアイザック・ニュートンの言葉、「他の人よりも遠くが見えて



いるとすれば、それは私が偉大な巨人の肩の上に立っているからです」によって、有名となったものです³。科学的発見は、まったくの無から突然ひらめくものではありません。過去の研究成果のすべてに目を通し、自分のものとする・・・そうやってまず巨人の肩の高さまで到達する・・・その肩の上に立つと、目の前に新たな地平が開けてくる・・・そして、その上に自分のオリジナリティを加味することができれば、先人を凌ぐような発見や発想も可能となります。

こうした方法は、なにも科学やアカデミズムの分野だけではなく、産業やビジネスも同じです。ニューヨーク公共図書館は⁴、産業の「孵化器」「インキュベーター」としての役割を果たしてきました。コピー機で世界的に有名な、ゼロックスの創業者、チェスター・カールソンは、弁護士時代に、ニューヨーク公共図書館に毎晩通いつめました。そして、ある晩、物理学者の論文に「ある種のものに光を当てれば電気の伝導性を増加させる」というくだりがあるのを見つけました。これをヒントに実験を重ね、世界初の電子複写機を開発したと言います。

パン・アメリカン航空の創設者ももちろん。鉄道、船舶などの資料を図書館で集め、速度から運送事情までを徹底的に調べ上げるうち、「空こそ次世代を担う」と確信した、とのことでした。

ニューヨーク公共図書館の設立は、19世紀半ばにさかのぼります。新興都市であったニューヨークの知的リーダーたちは、パリやロンドンなど歴史あるヨーロッパの諸都市に引けを

とらない、文化的な都市にするためには、図書館の充実が不可欠だと考えました。なぜなら、文化を育むには、市民ひとりひとりが学ぶことを通して、自らを高めることが肝要であり、そのためには、貧富の差なく、誰もが自由に学べる環境を整備しなければならぬからです⁵。

イタリアのボローニャは、フェラーリやドゥカーティといった、高性能の自動車やオートバイを生み出した工業都市です。パッケージバレーとも呼ばれ、食料品や薬品などの包装機械でも有名です。ボローニャ市の人口は、38万人に過ぎませんが、73もの図書館を有しています⁶。

このようにして見ていくと、ビジネス支援や社会教育の場として、図書館の役割は極めて大きく、無限の可能性を秘めていることがわかります。そこで、まず図書館の役割と可能性につきましてどのように認識しておられるのか、小川知事にお尋ねします。

では、ひるがえって、福岡県では、県立図書館がこのような役割を果たしていると言えるでしょうか。

何人かの友人に「県立図書館に行ったことある?」と聞いてみました。その答えは・・・「県立図書館?・・・どこ?」、「百道浜に立派なのがあるよね～あれのこと?」・・・残念ですが、百道浜の福岡市立総合図書館に比べると、箱崎にある県立図書館は存在感が薄いようです。そこで、福岡県立図書館が現在どのような機能を果たしているのかについて、杉光教育長にご所見をお尋ねします。

県知事答弁

■ 図書館の可能性と役割

図書館の役割等についてですが、図書館は、一般図書、専門図書に加え、話題性のある図書等、時代の要請や住民の多様なニーズを踏まえた図書資料を収集・提供する機能を有しております。

また、利用者の様々な求めや相談に適切に応じるサービスを併せて行うことにより、住民の読書活動を支援しています。

これからの図書館には、住民や地域社会が抱える様々な課題を解決するための情報を提供する、知的情報拠点としての役割も求められてくると考えております。

その際、これまで蓄積してきた図書館本来の役割や機能を基本として考えていくことが必要であります。

教育長答弁

■ 県立図書館の機能について

県立図書館の機能は、基本的・専門的な図書資料等を収集保存するセンター、広範な資料等を提供する資料情報センター、本県に関する資料等を収集・提供する郷土資料センター、市町村の図書館運営等への支援を行う市町村立図書館活動の援助センター、子ども読書の推進を図るための子ども読書活動推進拠点としての機能があり、本県図書館サービスの中核的な役割を担っている。

【一般質問引用文献】

- 1. 井上真琴
『図書館に訊け!』
ちくま新書、2004年
- 2. 佐々木雅幸
「日本における創造都市の理論と政策的課題」
2006年、大阪市立大学都市研究プラザ
- 3. <http://www.phrases.org.uk/meanings/268025.html>
- 4. 菅谷明子
『未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告—』
岩波新書、2003年、2～3頁
- 5. 菅谷明子、同上書、7頁
- 6. 井上ひさし
『ボローニャ紀行』文春文庫、2010年、63頁
- 7. 社会福祉法人日本点字図書館 HP より
<http://www.nittento.or.jp/about/scene/reading.html>
- 8. 『日本の図書館 統計と名簿 2011』

【一般質問参考文献】

- 益子一彦
『図書館空間のデザイン - デジタル化社会の知の蓄積』
丸善出版、2011
- 根本彰
『理想の図書館とは何か』知の公共性をめぐって、
ミネルヴァ書房、2011
- 吉田右子
『デンマークのにぎやかな公共図書館 - 平等・共有・セルフヘルプを実現する場所』
新評論、2010
- 佐々木雅幸
『創造都市への挑戦—産業と文化の息づく街へ』
岩波書店、2012
- 竹内比呂也
『図書館はまちの真ん中—静岡市立御幸町図書館の挑戦』
勁草書房、2007

- なかつかゆみこ
『さわってごらんいまなんじ?(バリアフリーえほん)』
岩崎書店、1999
- 柳与志夫
『千代田図書館とは何か—新しい公共空間の形成』
ポット出版、2010
- 身近に図書館がほしい福岡市民の会
『お～い図書館～市民による図書館運動10年の記録～』
石風社、2006
- 身近に図書館がほしい福岡市民の会
『地域に図書館はありますか?』
石風社、2008

2. 福岡県立図書館の現状と課題

次に、福岡県立図書館の現状と課題について5点お聞きします。

1) 県立図書館の利用状況について

1点目に、現在の県立図書館の利用状況についてです。わが会派の川崎俊丸議員が平成22年12月定例会で質問し、全国の47都道府県立図書館と比較した場合の福岡県立図書館の順位について、一般会計の歳出に占める図書資料費の比率40位、県民一人当たり蔵書数44位、資料費40位、貸し出し数同じく40位と、いずれも全国で非常に低い位置にあることを指摘しました。

川崎議員の質問からまだ2年足らずしかたっており、これらの指標に大きな変化はありません。そこで、県立図書館の利用状況の一端を示すものである、蔵書数、貸出冊数、年間入館者数、レファレンス件数につきまして、この5年間の推移と、今後の取り組みについて教育長にお尋ねします。

教育長答弁

■県立図書館の利用状況について

県立図書館の平成23年度の蔵書冊数は平成19年度に比べ約11%増の約77万2千冊、貸出冊数は約82%増の約42万4千冊、年間入館者数は約7%増の約50万1千人、レファレンス件数は約57%増の約3万7千件など、いずれも増加している。

今後とも、閲覧、貸出、レファレンスサービスの充実を図り、利用促進に努める。



福岡県立図書館本館

2) ソフト面(県民サービス)の充実について

2点目にソフト面の充実についてです。

福岡県立図書館では、平成15年にビジネス支援情報コーナーの設置、平成21年に情報提供システムの更新、平成22年に在架予約サービス、および遠隔地貸出・返却サービスの本格実施など、この間、館長はじめ職員の方々のご努力により、時代のニーズに合わせるべく、ソフト面での充実が図られてきたことは評価に値すると思います。

また、県立図書館には力強い応援団がついています。録音図書制作ボランティア「音訳の会」、布の絵本制作ボランティア「ゆずりはの会」、ブックトークボランティア「本の楽しさおとどけ便」など、県民サービスの充実を支えてこられたボランティアの皆さまにも、敬意を表したいと存じます。

しかしながら、ネットワーク化の進展には課題もあるように思います。同じく平成22年の川崎議員の質問に対し、教育長は「市町村立図書館を初めとして公民館図書室、学校図書館、九州大学を初めとする大学附属図書館等と相互貸借を行い、図書館間の連携、協力を促進しております。また、福岡県図書館情報ネットワークで、図書館を設置しております、すべての市町村とインターネットを通じてネットワークを形成しているところがございます。」とお答えになっています。そこで、教育長にお尋ねします。ネットワーク化に関して、現在の進捗状況および今後の取り組みについてお聞かせ下さい。

もう一つ課題が残されています。この世界では、誰もが、時空を超越することができます。「読書をしている時は身の不自由を忘れる」とも言われ、⁷障がい者、高齢者など、いわゆる情

報弱者の方々にとって図書館はとりわけ大切な場所です。特に、視覚に障がいのある方については、点字やデージーデータをはじめ総合的な情報の提供を行う「サビエ」によるサービスが始まっています。そこで、視覚障がい者も等しくサービスを受けられるよう県立図書館は、県内の情報ユニバーサルサービスの拠点として、今後どのような取り組みを考えておられるのか、教育長にお尋ねします。

教育長答弁

■ソフト面の充実について

図書館のネットワーク化は、県内図書館の蔵書を検索できる横断検索や他の図書館から借用して利用者に提供する相互貸借、自宅近くの図書館で県立図書館の本を借りられる遠隔地サービスのシステムの充実を図っており、近年、利用者数の増加が見られる。

今後とも、利用者のニーズに対応するため、関係機関と連携し、利用促進に努める。

■視覚障害者への取組みについて

県立図書館においては、視覚障害者に対して点字図書や録音図書などの提供や録音図書の無料郵送サービスを行うとともに、本年度から「視覚障害者情報総合ネットワーク」通称サビエに加入し、未所蔵の録音図書を全国の所蔵館から借りることができるようサービス改善を図っている。

今後は、インターネット上で図書館の蔵書や地域・生活情報等を提供するサビエの活用について関係機関に対し広報・啓発を図る。

情報の集積・発信とネットワーク化の推進に努め、本県の発展を支える情報拠点として、県民や地域が直面する課題の解決に貢献できるよう図書館行政の推進に努める。

3) 職員体制の充実 について

3点目に職員体制の充実についてです。専任職員1人当たりのサービス人口は、兵庫県に次いで二番目に多くなっています。⁸ すなわち、福岡県では、県民の人口規模に対して、図書館業務に専門で携わる職員が非常に少ない、ということです。これは、福岡県が他県に比べ、効率的に県民サービスを行っているともみることができますが、職員に過度に負担がかかっているという可能性もあります。

実際に、平成19年度から23年度までの間に、一般の貸し出し冊数や郷土資料のレファレンス数が約2倍となるなど、業務内容は確実に増えています。しかし、この間、職員数は、正規職員33人、嘱託20人、計53人のまま増員されていません。

先に述べましたように、ビジネス支援や社会教育の場としての図書館の可能性を十分に生かすには、また、ユニバーサルサービスを充実するなど、県民サービスをさらに向上するには、なによりも雇用の安定性の確保、業務内容に見合った数の職員と優れた人材が必要です。

さらに、県立図書館は、「図書館の中の図書館」として、県内の市町村図書館や学校図書館の運営について助言したり、県内の図書館の運営を担う人材を育成するなど、大変重要な役割も担っています。専門職員には、最新の情報技術や情報ニーズを把握する能力、社会の変化に適切な情報の収集や編集能力、さらには企画力、ネットワーク力などが求められます。

そこで、教育長にお尋ねします。司書資格を有する職員の配置など、職員体制の充実につきましてお考えをお聞かせください。



福岡県立図書館別館(子ども図書館)

教育長答弁

■職員体制の充実について

これからの図書館には、図書資料の提供や調査・相談への対応に加え、情報提供を通じた学校支援、ビジネス支援など専門的支援が求められ、司書の役割は大きいと考える。

現在、県立図書館の職員53名のうち司書資格を有する職員は39名であり、今後とも司書資格を有する職員の適切な配置に努める。

4) ハード面(施設面) の課題について

4点目にハード面の課題についてです。東京都千代田区日比谷図書館文化館、大分県立図書館など、国内にも次々と、明るく開放的で洗練されたデザインの図書館が誕生しています。それに引き替え、われらが県立図書館は、竣工から約30年が経ち、雨漏り、壁のシミやカーペットの色褪せなど、全体に古びた印象は否めません。どんなにソフト面で頑張っても、ハード面の不備や、建物自体の魅力のなさが、知名度の低迷や存在感の薄さにつながっているのは明らかです。

書庫も足りません。現在の占有率は92%です。また、公共交通機関での来館が難しい、障がい者、高齢者、子ども連れの利用者のためには、駐車場の確保が必要ですが、車椅子の方などのための「まごころ駐車場」2台分を含め、駐車スペースは19台分しかありません。

そこで、教育長にお尋ねします。福岡県立図書館の老朽化や狭隘化といったハード面、施設面の課題について、どのようにお考えでしょうか、ご所見をお聞かせください。

教育長答弁

■施設面の課題について

現在の県立図書館は、昭和58年に開館し、一部の設備に老朽化が見られるが、その都度、修理するなど、

適切な維持・管理に努めている。

書庫の問題は、図書資料を1冊に精選したり、書架を増設したりして対応している。また、駐車場の問題は、地下鉄等の公共交通機関を案内するとともに、満車の場合には近隣の民間駐車場の利用をお願いしている。

今後とも、県立図書館の利用に支障をきたすことがないように努める。

5) 本県図書館行政 における県立図書館の 在り方について

5点目に、本県図書館行政における県立図書館の在り方についてです。

図書館は、「知的インフラ」とも言われます。重化学工業を基軸とする工業社会から、ソフト産業を基軸とする知識社会へと移行しつつある今日、道路や橋や港のような従来型のインフラ以上に、「知的インフラ」の重要性が増しています。したがって、「知的インフラ」としての図書館のもつ、新たな可能性について、正しく認識した上で、その役割を再定義するなど、時代の変化に合った図書館行政が求められていると考えます。

そこで、最後に、本県図書館行政における県立図書館の在り方について、教育長にお考えをお尋ねし、私の質問を終わります。ご清聴有難うございました。

教育長答弁

■本県図書館行政における県立図書館の在り方について

県立図書館の果たす役割は、情報化や少子高齢化の進展、県民の学習ニーズの多様化・高度化への対応等、今後ますます重要になると考える。

このため、県立図書館は、資料や情報の集積・発信とネットワーク化の推進に努め、本県の発展を支える情報拠点として、県民や地域が直面する課題の解決に貢献できるよう図書館行政の推進に努める。

< 堤かなめ議員による要望 >

ご答弁をいただき、県立図書館の役割については十分認識しておられることがわかりました。しかし、まだ福岡県は図書館のもつ可能性を十分に生かしきれていないように思います。今後の展開を、県民の皆さまと共に、期待をもって見守っていきたいと思いますが、中・長期的な図書館の振興について、2点要望させていただきます。

1. 図書館利用共通カードの導入

皆さまご承知のように、IC乗車券については、JR九州の「スゴカ」、西鉄の「ニモカ」、福岡市交通局の「はやかけん」の3つが統合され、公共交通機関が格段に利用しやすくなりました。

図書館利用カードについても、県内の市町村図書館や学校図書館など、あらゆる図書館を利用できる共通カードに統合することができれば、県民の皆さんの利便性が高まるのではないのでしょうか。図書館間の相互貸借などの管理も容易となり、職員の事務作業の軽減につながる可能性もあります。

実際に、スイスでは、「ビブリオパス (BibliOpass)」と呼ばれる一つのカードで、スイス国内の約600の図書館の本を自由に借りることができるそうです。日本では福岡県がまず図書館利用共通カード導入の先鞭をつけてくださいますよう、ぜひともご検討願います。

2. 国立国会図書館「九州館」の誘致

東京都千代田区永田町に所在する、国立国会図書館「東京本館」における蔵書の収容能力が限界に近づいているということもあり、国立国会図書館「関西館」が、2002年、京都府に開館いたしました。この「関西館」は、高度情報化社会に対応した「電子図書館」の機能を有し、建物は日本建築学会賞を受賞するなど、高く評価されているようです。

来たるべき道州制を見据えた、九州の「知の拠点」として、国や福岡市、北九州市、経済界などと協議しつつ、国立国会図書館「九州館」を誘致することも、検討に値すると考えます。

候補地の一つとしては、福岡市東区の九州大学箱崎キャンパス跡地が挙げられます。ここに、首都機能を補完する、バックアップセンターを誘致する、という構想もあると聞きます。万が一、南海トラフ巨大地震が起きたとしても、福岡県は地震や津波の被害が比較的小さいと想定されており、バックアップセンターに指定される可能性は、十分あります。国立国会図書館「九州館」が誘致できれば、首都機能の重要な一つである、「情報システム・データのバックアップ施設」としての役割も果たすことができるのではないかと考えます。

アメリカのシアトル、オランダのデルフト、スウェーデンのストックホルム、エジプトのアレキサンドリア・・・世界各地で、「文化の高さ」を示す象徴として、最先端の情報技術を導入した、図書館づくりが進んでいます。無線LANなどPC環境の整備はもちろん、ホールや展示室、カフェやレストランを併設し、集客力のある魅力的な施設として、観光スポットにもなっています。この様な、新しいタイプの図書館をつくるには、ある程度以上の敷地面積が必要であり、九州大学箱崎キャンパス跡地などは、これらを実現する好機ではないかと感じております。

跡地の面積は、ヤフードームの約6倍。敷地内には、レンガ造りの建物や倉田謙設計の有名な建築が深い緑に囲まれて点在しています。このような歴史的建築を保存改築すれば、趣のある素晴らしい図書館や美術館となるはずで、福岡市中央区須崎に所在する、老朽化が進んでいる福岡県立美術館も併せて、こちらに移転すれば、総合的な文化施設として集客力も高まるでしょう。

最後に、知識情報経済という21世紀型の社会を支える「未来の図書館」に向け、小川知事、教育長はじめ関係者の皆さまの英知とお力を結集していただきますようお願いいたします。降壇させていただきます。有難うございました。



2012年9月定例会一般質問



箱崎キャンパス旧工学部本館



箱崎キャンパス旧本部事務局



箱崎キャンパス旧工学部本館

県議会トピックス

7月梅雨前線豪雨災害

本年7月に九州北部を襲った梅雨前線豪雨により、県内各地で家屋や事業所、道路、河川、農地・農業用施設、農作物などに大きな被害が発生しました。福岡県における被害発生状況（8月30日現在）は以下の通りです。

- 人的被害 死者5名・重傷者3名・軽傷者11名 計19名
- 家屋の全壊 73棟 半壊428棟 計501棟
- 床上浸水 1014棟
- 道路の損壊 2372件
- 橋梁の流失・損壊 46件
- 河川の損壊 907件 うち決壊111件
- かけ崩れ 992件
- 被害総額 670億円

当震災を受け、私の所属会派も8月1～2日に急遽現地視察を行い、関係首長並びにJA・漁協組合長等からの陳情を受けました。政府も7月20日に野田総理が福岡熊本両県を視察した他、関係大臣等の視察も相次ぎ、その結果これまでを大幅に上回るスピードで農業・公共土木に関する激甚災害指定が実現しました。

引き続き、被災者の生活支援、道路・河川などの公共土木施設や農業関係の災害復旧事業、被災箇所の改良に繋がる関連事業など、迅速かつ円滑な復旧・復興を実現すべく会派をあげて取り組みます。



福岡県警察捜査情報漏洩問題

本年7月に本県の現職警察官が暴力団関係者に捜査情報を漏らし、見返りに現金を受け取っていたという、耳を疑いたくなるような事件が発生しました。本県は暴力団の犯行と見られる発砲事件が多発している事態を重く受け止め、全国に先駆けて「暴力団排除条例」を制定するなど、県民と行政、警察が一体となり、暴力団排除の県民運動に取り組んでいます。こうした中で起きた今回の事件は、これまで県民や関係者の努力で盛り上がってきた暴力団排除の気運を一気に冷めさせてしまう重大な背信行為だと言えます。また、たった一人の警察官がおこした不祥事が、県民生活の安全を守るために頑張っている警察官をも裏切ることとなってしまったことは誠に遺憾です。

県警察はこういった事態を踏まえ、

- ①捜査情報の重要性の再徹底
 - ②捜査協力者等の運用・管理制度の見直し
 - ③きめ細かな身上把握の徹底
 - ④非違事案の兆候を把握するシステムの構築
- を柱とした再発防止対策を講じるとのことです。

また、県民の安全の確保と暴力団の封じ込めに向けて、本県警察官のみならず他県からの特別派遣部隊等を歓楽街等へ大量投入することや、銃器発砲事件等の早期解決はもちろんのこと、中枢幹部や組員を大量検挙するための捜査・取締りを徹底することで、目に見える結果を示し、失った信頼を回復すべく不退職の決意で暴力団排除のための取り組みを進めるとのことです。



福岡県議会議員 堤 かなめ (福岡市博多区)

□議員控室 福岡市博多区東公園県議会内
TEL : 092-643-3804 FAX : 092-622-6203

堤かなめホームページ <http://www.kaname2010.org/>

■プロフィール

博多区那珂校区在住
昭和35年生まれ
太宰府小学校、牛額小学校、大野南小学校、大野中学校で学び、筑紫丘高等学校卒業（バスケット部主将）
九州大学文学科卒業後
KDD国際電話株式会社にて5年勤めたのち、九州大学大学院にて社会学を学ぶ

- 1993年 九州国際大学専任講師となり、のちに教授へ昇格(2001年)
- 1995年 スウェーデン、カロリンスカ研究所に客員研究員として半年間滞在し、福祉の国・スウェーデンの現状を目の当たりにする
- 1997年 虐待を受けた子どもや女性を支援する「アジア女性センター」を立ち上げる
- 2000年 男女共同参画を推進する「福岡ジェンダー研究所」を立ち上げる
- 2002年 渡英、イギリス、サリー・ローハンブトン大学客員教授として勤務
- 2005年 九州女子大学教授
- 2010年 参議院議員選挙福岡選挙区より立候補 176149票を獲得
現在、九州大学大学院人間環境学府非常勤講師

